

## 錦江町親子山村留学とは…？

親子で錦江町に1年間移り住み、子どもは地域の学校へ通いながら、家族で錦江町の暮らしを体験する制度です。  
地域の人々とのふれあいや、自然豊かな環境の中での様々な体験・教育活動を通して、親も子も一緒に楽しむ「家族留学」です。

## 親子山村留学の受入状況は…？

| 令和6年度                 | 令和7年度                | 令和8年度                          |
|-----------------------|----------------------|--------------------------------|
| <b>2組4名</b>           | <b>2組4名</b>          | <b>3組6名</b>                    |
| 《内訳》大根占小 3名<br>錦江中 1名 | 《内訳》田代小 3名<br>神川小 1名 | 《内訳》神川小 3名<br>錦江中 1名<br>田代小 2名 |

募集を開始した令和5年度は受け入れ件数が0でしたが、翌年から問合せが増え、3年間で7組14名の親子を受け入れています。

## 保育園留学との違いは…？

|      | 保育園留学   | 親子山村留学                |
|------|---------|-----------------------|
| 滞在期間 | 1週間～2週間 | 1年間                   |
| 住民票  | 異動しない   | 異動する                  |
| 留学助成 | なし      | あり<br>(児童生徒1人あたり月4万円) |

短期滞在型の保育園留学とは異なり、親子山村留学は住民票を錦江町へ移し、1年間町内の小中学校に通います。  
親子山村留学では、児童生徒1人あたり月4万円の助成金が支給されます。

## 保育園留学での来町者数は…？

事業開始時（令和5年度）～令和8年度（予約含む）

のべ **103組338名**

令和5年度からスタートした保育園留学。内閣府の「一時預かり制度」を活用し、町外の子どもの受け入れを行っています。  
錦江町での滞在期間は1～2週間程度。役場が借り上げている2棟の空き家に滞在し、錦江町での暮らしを体験します。  
株式会社キッチハイクが運営する「保育園留学予約サイト」で留学生を募集しています。

保育園留学について詳しく知りたい方はこちらをご覧ください→  
(広報きんこう 2024年7月号)



# 保育園 留学から親子山村留学へ



「また来たい」が「ここで暮らしたい」に変わるまで—。

近年、自然豊かな地域での暮らしや子育てに関心を寄せる家庭が増えていきます。都市部では得難い自然体験や地域とのつながりを求め、一定期間地方で暮らす「山村留学」も、その選択肢の一つとして注目されています。

本町で実施している「親子山村留学」は、子どもだけが留学する従来の山村留学とは異なり、保護者も一緒に地域へ移り住み、日々の暮らしをともに営みながら学校生活を送る制度です。子どもは町内の学校で学び、豊かな自然や地域の人々との交流を通して、多様な価値観や生きる力を育みます。また、地域にとっても、留学生やその家族との出会いは新たな交流を生み、地域の活力につながっています。

そして今年度、本町にとってうれしい出来事がありました。これまで何度も保育園留学で本町を訪れていたご家族が、「もっとこの町で暮らしたい」「子どもをこの環境で学ばせたい」という思いから、親子山村留学生として新たな一歩を踏み出してくださったのです。

「訪れる町」だった場所が、「暮らす町」へと変わるまでには、どのような思いや決断があったのでしょうか。今回の特集では、ご家族へのインタビューを通して、親子山村留学を選んだ理由や、この町での暮らしの魅力を紹介します。

／埼玉県狭山市からやって来た／

## 渡邊さんご家族にインタビューしました

### 錦江町との出会い

—「保育園留学」を知ったきっかけは？

母 希望さん（以下母） 保育園留学の体験記事をSNSで見たことがきっかけでした。子どもたちをインターナショナルスクールに通わせていたので、小学校入学前に日本の集団行動を経験させておきたいという思いがあつて、「これはいい機会だ」と思って申込みました。

—なぜ錦江町に？

母 埼玉に住んでいたのですが、とにかく海への憧れが強くて。海の近くで、年度末に受け入れ可能な園を探していたら「田代こども園」がヒットして即決しました。いざ来てみたら、田代は全然海じゃなくてびっくりました（笑）

—錦江町に初めて来たときの印象は？

母 1週間しか滞在しなかったのですが、とにかく長男がとても錦江町を気に入っていて「また来たい」と。埼玉に帰宅後、すぐに2回目を申込みました。



子や「次はいつ行けるの？」と心待ちにしている様子を見て、とても良い経験ができているのだと感じていました。異なる文化や風土に触れる経験は、楽しい思い出になるだけでなく、将来きつと子供たちの財産になるだろうと思っていました。

### 「親子山村留学」という選択

—「親子山村留学」を意識し始めたのはいつ頃？

母 2回目の保育園留学のとき、長男が「山村留学なら1年間錦江町に住めるんだって」と聞いて帰ってきました。その頃は制度を知った程度でしたが、何度も訪れるうちに自然と意識するようになりました。

—決断の決め手は？

母 長男が小学校で友達関係に悩むことがあり、「今の環境がすべてではない。自分に合う場所があればいい」と私は考えていたので、「錦江町の友達に会いたい」という長男の気持ちを尊重したいと思いました。主人は、錦江町に實際来てみて、いいところだということとは分かっていたものの、離れ

—2回目も即決だったのですね

母 「絶対に夏に行きたい」と長男が張り切っていて、夏に予約していたのですが、次男が病気にかかってしまい、行けず。冬休みに延期し、念願の2回目の保育園留学はとても嬉しそうでした。2回目には、家族ぐるみで仲良くしてくださる友達もできて、私自身も楽しく過ごすことができました。

—お父さんは保育園留学のことをどう思っていましたか？

父 隆明さん（以下父） 仕事の都合で自分はいつもお留守番でしたが、子どもたちがいろいろな体験を楽しそうに語ってくれる様



て暮らすことに最後まで反対していました。でも、最終的に「行ってくれば」と背中を押してくれました。よほど私たちが行きたそうな顔をしていたのかも（笑）  
父 私は最後までなかなか決断できませんでしたが、仕事のため、私は一緒に行くことができないので、妻が一人で育児に疲弊してしまわないか、自分自身は家族と離れて暮らすことに耐えられるのか、短期間ならともかく一年間となると不安がありました。でも、私自身も錦江町を訪れ、子どもたちが錦江町で生き生きと遊ぶ姿や豊かな自然に触れ、「こんな環境で過ごせたら子どもたちの世界が広がる」と感じました。東京育ちの私は、生きたオニヤンマを見たのは錦江町が初めてでした。

## 渡邊家「親子山村留学」までの歩み

令和6年  
3月

初めての来町（保育園留学1回目）  
田代こども園第2号の留学生として来町。1週間滞在。



12月

2回目の来町（保育園留学2回目）  
夏に2回目を予定していたが、次男 宗司さんが病気のため延期に。



令和7年  
3月

3回目の来町（保育園留学なし）  
春休みを利用して来町。近隣のホテルに宿泊し、滞在中は保育園留学で仲良くなった友達と交流。



7月

4回目の来町（保育園留学3回目）  
次男宗司さんは田代こども園に、長男忠司さんは田代学童クラブに2週間滞在。父隆明さん、初来町。



11月

親子山村留学を決断  
春からの田代小学校への親子山村留学を決心。

12月

5回目の来町（保育園留学4回目）  
年末年始を錦江町で過ごす。



令和8年  
4月

親子山村留学スタート  
母希望さん、長男 忠司さん、次男 宗司さんの3人で親子山村留学に。



—お父さんは、実際に錦江町を訪れて、気持ちに変化されたんですね。  
父 地域の皆さんとの交流を通して、人とのつながりや支え合いが今もあることを実感しました。妻も心から楽しそうで、この町なら周りに支えられながら暮らせると思えました。自分の寂しさよりも、家族にとって貴重な機会を大切にしたいと決断しました。

### 親子3人 錦江町での暮らしがスタート

#### —長男忠司さんの様子は？

母 引越しの日を楽しみにカウントダウンするほど錦江町が大好きです。毎日楽しそうに登校し、埼玉にいた頃より生き生きしています。

#### —次男宗司さんの様子は？

母 実は次男はあまり山村留学に乗り気ではなく、「なんで鹿児島に行かなきゃいけないの？」と祖母に話していたそうです。ちゃんと学校に通えるかなと心配していましたが、今では「埼玉には帰らない」と言うほど錦江町の生活を楽しんでいて、その変化に驚いています。

#### —お父さんが、離れて暮らす子どもたちの成長を感じる瞬間は？

父 私が一緒にいない分、妻を助けてあげるようにと伝えた時に頼もしい返事をしてくれたことが印象的でした。元気に学校へ通い、友達や課外活動の話を楽しそうにし

てくれる姿にも成長を感じます。

#### —お母さん自身の変化は？

母 埼玉の学校とのギャップが大きくて、最初は戸惑うことも多かったのですが、だいたいは慣れてきました。ストレスなく、のびのびと生活しています（笑）

#### —錦江町で実際に生活してみようかどうか？

母 思っていた以上に住みやすいです。買い物も鹿屋まで行けば不便はありません。ただ、鹿児島の湿気は想像以上でした。除湿器を2台買って快適に過ごしています（笑）

#### —休日の過ごし方は？

母 一年間しかないのです。鹿児島県内や宮崎まで足を延ばしています。山村留学に来る前には「毎月埼玉に帰ろう」と思っていたのですが、ゴールデンウィークに帰ったばかりで、夏休みも鹿児島で過ごすことに。主人が休みを取って、毎月こちらに来てくれています。

#### —地域とのつながりは？

母 近所の方々がよく気にかけてくださって、本当にありがたいです。お店に行けば「見ない顔だね。どこの子だったけ？」と声をかけてくださったり、庭の草が伸びていたから草刈機で刈ってくださいだったり。温かい地域だなと思います。

#### —暮らしているからこそ感じる魅力は？

母 皆さんが優しく、学校の先生方も子どもたちをよく見守ってくださいっています。



## 「錦江町親子山村留学生」を募集中

錦江町では、令和9年度の「親子山村留学生」を募集しています。

小規模校の良さを活かした学習環境や様々な体験・教育活動の中で「生きる力」を育むことができます。

**募集対象**▶ 小学1年生から中学3年生までの児童生徒のいる家族

**留学期間**▶ 1年間（学年の修学期間）

**留学助成**▶ 児童生徒1人あたり4万円

**申込方法**▶ 錦江町ホームページより申請書、健康状況調査票をダウンロードし、錦江町教育委員会まで郵送してください。



校長先生とも気軽に話せる距離の近さに驚きました。新鮮な野菜や果物、お刺身など食べ物がいっぱいのも魅力です。

—親子山村留学も4分の1が過ぎましたね  
母 本当にあつという間です。子どもたちは「もう埼玉には帰らない」と言うほど錦江町に馴染んでいます。残りの8か月も、この生活を思いきり楽しみたいです。

#### —渡邊家の皆さん、最後に錦江町の好きなところを教えてください

長男忠司さん 友達と虫がたくさんいるところ。友達とおしゃべりが楽しいです。

次男宗司さん ばくも友達と虫がたくさんいるから錦江町が大好きです。

父 山も海もあり、食べ物がいっぱい、一年間では遊び尽くせないほど魅力がいっぱいです。何より、家族それぞれに大切な仲間ができ、温かく迎え入れてくださる地域の皆さんの存在が、この町の一番の魅力だと感じています。

母 自然が豊かで、子どもたちののびのびと過ごせる環境がとても気に入っています。何より、この町の皆さんの温かさには何度も助けられました。移住当初から「昔からの知り合いだったかな」と思うほど自然に受け入れてくださり、一度もホームシックになることなく過ごしています。人の温かさや豊かな自然、その両方がこの町の一番の魅力だと感じています。